

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果のお知らせ
大月市内小中学校の状況について

大月市教育委員会

4月18日に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。調査結果を分析しましたのでお知らせします。

本調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。この調査は小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されました。

内容は教科に関する調査(小学校 国語・算数、中学校 国語・数学)と質問紙調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等)です。

市内小中学校では、自校の結果を分析し、指導方法の改善等を行っています。更に調査を受けた児童生徒とその保護者の皆様には、個々の良いところや課題点、努力点等を説明し、今後の学力向上に向けて家庭との連携を図るように努めています。

1 教科に関する調査(国語 算数・数学)について

(1)全体の結果と状況 指導改善のポイント

	市内小学校の平均正答率	市内中学校の平均正答率
国語	県平均とほぼ同等	県平均とほぼ同等
算数・数学	県平均とほぼ同等	県平均とほぼ同等

※ 「県平均とほぼ同等」という根拠 …… 文部科学省では、平均正答率との差±5%を微差とし、「±5%は、ほぼ同等を意味する」としているのです、それに従って表記している。

○指導改善のポイント(小学校・中学校)

《 小学校 国語 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

調査問題

- 1 学校の取組をオンラインで紹介し合う
- 2 学校のよさを伝える文章を書く
- 3 物語を読み、心に残ったところを説明する

○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

○話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができる。

○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。

●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。

●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。

●文の中における主語と述語との関係を捉えることができる。

●目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。

○指導改善のポイント

- ・小中学校を通じた効果的な資質・能力の育成のため、記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を工夫することが重要である。
- ・音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに、資料を使いながら話すことや、聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定することが大切である。実際に話す場面では、聞き手の状況に応じた表現を工夫できるようにすることが大切である。
- ・主語と述語との関係について、低学年から繰り返し指導することが大切である。日常的に主語が何かを意識して文章を読んだり書いたりすることが重要である。
- ・話し手の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、話す際の材料を集め、分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することが大切である。また、学習活動を振り返る際に、聞き手が知りたいことを想定して内容を検討することができたか、という視点をもつことも効果的である。
- ・事実を客観的に書くとともに、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことが重要である。伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにすることが大切である。また、内容に注目して、文章全体に一貫性があるかを確認したり、文末表現に注目して、事実と考えを適切に区別しているか、事実と考えを混同して書いていないかを確認したりする場面を設定することも大切である。

《 小学校 算数 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

調査問題

- 1 加法や減法の問題場面の数量の関係を捉え式に表すこと(折り紙)
- 2 乗法の性質や除法の除数と商の大きさの関係について考察すること(米)
- 3 図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し立体図形について考察すること(見取図・展開図)
- 4 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察すること(道のりと時間と速さ)
- 5 身の回りの事象を目的に応じて表やグラフを用いて考察すること(桜の開花予想)

○除数が小数である場合の除法の計算をすることができる。

○除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解している。

○角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できる。

○折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる。

●計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる。

●速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる。

●直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解している。

●示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できる。

○指導改善のポイント

- ・計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を能率的に処理できる場合があることに気付き、計算を工夫できるようにすることが重要である。さらに、答えの求め方について、筋道を立てて説明できるようにすることも大切である。
- ・道のりと時間が比例関係にあることに着目して、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解できるようにすることが重要である。
- ・日常生活の場面のデータをグラフに表し、そのグラフから特徴や傾向を捉え、見いだしたことを表現できるようにすることが重要である。その際、グラフのどの部分を基に、必要な情報を読み取ったかを表現できるようにすることが大切である。
- ・日常生活の問題を解決するために、必要な数値を用いて処理したり、その結果を式に表したりすることができるようになることが重要である。

《 中学校 国語 》 ○平均正答率が高い ●平均正答率が低い

調査問題の解説

- 1 話し合いをする(「フィルターバブル現象」)
- 2 説明的な文章を読む(「葉の形」)
- 3 物語を創作する(「紙の辞書」)
- 4 短歌を紹介する(「月と風景」)

- 必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができる。
- 資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができる。
- 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。
- 文の成分の順序や照応について理解している。
- 短歌に用いられている表現の技法について理解している。
- 文脈に即して漢字を正しく書くことができる。
- 目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。
- 行書の特徴を理解している。

○指導改善のポイント

- ・表現の技法について理解したことを、文章を読んだり、自分の考えを伝えたりする場面で活用できるようにすることが大切である。そのためには、表現が工夫されている文章や詩歌などを取り上げ、用いられている表現の技法に着目し、その名称などを確かめた上で、その効果について考えたり自分の表現に生かしたりするなど、知識と活用場面が結び付くように指導することが効果的である。
- ・原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際の話や文章の内容を理解したり精査したりする際に、その関係を捉えることができるようにすることが大切である。そのためには、話し合いの中での発言などを取り上げ、どの部分が意見でどの部分が根拠なのかを確かめたり、根拠が意見を支えるものになっているかを確かめたりするなど、文脈の中で具体的に捉えることができるように指導することが効果的である。

調査問題

- 1 連続する2つの偶数
- 2 等式の変形
- 3 回転移動
- 4 一次関数
- 5 確率
- 6 構想を立てて説明し、統合的・発展的に考察すること(頂点の数の和)
- 7 データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること(車型ロボット)
- 8 日常的な事象における問題について、関数関係に着目し構想を立て解決すること(ストーブ)
- 9 筋道を立てて証明し、図形を考察すること(2つの正三角形)

○複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができる。

○グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができる。

○二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができる。

○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

●連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができる。

●一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解している。

●簡単な場合について、確率を求めることができる。

●等式を目的に応じて変形することができる。

○指導改善のポイント

- ・連続する二つの偶数を文字を用いて表現できるように指導することが大切である。その際、例えば、連続する二つの偶数の場合、偶数とは2で割ったときに余りが0になる整数であることや、2数の差が2であることなど数量のもつ特徴を確認することが大切である。その上で、 $2n$ 、 $2n + 2$ などと表し、さらに n に具体的な数を当てはめて、正しく表現できていることを確認する活動を取り入れることが考えられる。
- ・一次関数 $y = ax + b$ のグラフについて、 a や b の値の増減によってグラフが変化する様子を捉える活動を通して、式とグラフの特徴を関連付けて理解できるようにすることが大切である。
- ・事柄が一般的に成り立つ理由を、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明する活動を取り入れることが大切である。例えば、「□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の2倍になる」ということを説明するために、計算結果を表した式を「 $2 \times (\text{○に入れた整数の和})$ 」の形にすればよいという見通しをもって、式を変形できるようにすることが大切である。

(2) 評価の観点と問題形式、無回答について

評価の観点は「知識・技能」「思考・判断・表現」、問題形式は「選択式」「短答式」「記述式」となっている。

評価の観点では「思考・判断・表現」、問題形式では「記述式」の問題において、苦手傾向があり、また無回答率が高い傾向がある。(これは県内・全国的にも同様の傾向である)

無回答率が高かったのは、小学校国語では「人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」「日常的に読書に親しみ、読書

が、自分の考えを広げることに関与することに気付く」「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題である。

小学校算数では「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できる」「球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる」「速さの意味について理解している」「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できる」問題である。

中学校国語では「文脈に即して漢字を正しく書くことができる」「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができる」「行書の特徴を理解している」問題である。

中学校数学では「筋道を立てて考え、証明することができる」「統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができる」「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」問題である。

(3)各学校に於ける主な取組

○ICTの活用

- ・「学習者主体の学習」や「自由進度学習」など、児童がそれぞれの興味・関心や進度に応じた学習や、解決の方法を自分なりに選択・判断した学習を行うためのツールとして ICT を活用できるよう普段から様々な場面で使用している。
- ・多くの情報や学習の軌跡など、瞬時に共有して振り返ったり、友達の考えや発表を共有したりする際も、視覚的にもわかりやすく、大勢で共有できる電子黒板やタブレット端末等の ICT 機器の利点をフル活用して、わかりやすい授業の日常化に努め、学力の定着や思考の多様化を進めている。
- ・1人1台端末等の ICT 環境を活用した教育の充実を図っている。端末の持ち帰り等をこれまで以上に実施し、授業だけでなく、家庭学習での活用も促進している。

○家庭学習

- ・授業の中で家庭学習の取組方について指導をしています。実際に授業中に時間をとって、家庭学習ができるように練習をしています。また、漢字のテストについて、期限を設けながら自由進度で計画的に進められるようにしている。
- ・家庭での学習習慣の確立に向けて、「家庭学習の手引き」や「各クラスの代表の参考ノートの展示」「家庭学習チェックシートでの毎回の振り返りと新たな目標設定」など、定期的に活用して、個々の自主性を保護者と連携を図りながら取組を続けている。

○授業

- ・自分の意見をまとめるということに課題があるため、様々な教科で自分の意見をノートに書いたり、Canva や Padlet で共有したりして、取り組む機会を増やしている。
- ・基礎基本を抑えつつ、普段の授業から自分の考えをノートに書くことや、作文指導に力を入れていくことは、今後も継続していく必要がある。
- ・複数の資料からなる「非連続型テキスト」を読み取ることに、経験値をあげていくことが求められる。
- ・順序立てて問いに答える、いわゆる論理的な思考を必要とする問題が多い。問題を整理しながら読み取りを深め、理由の記述や立式へとつなげる問題への取組が必要である。
- ・普段から記述する習慣を身に付けていく。
- ・やまなしスタンダードの7つの視点を取り入れた授業づくりを継続している。1時間の授業課程モデルのように「つかむ」「見通す」「ふかめる」「ひろめる」「まとめる」「ふりかえる」の流れを定着させている。

○学級経営

- ・児童が自ら、学級のいいところや課題を見出せるように、定期的にアンケートを行っている。その結果から学級をよりよくしていくことを目的とした話し合いを行っている。
- ・Web-QU 検査(児童生徒の学級満足度をアンケート実施日で把握することができます。いじめ、不登校、やる気、ソーシャルスキル、部活動、アクティブラーニング、学習意欲の項目があります)によって得られた結果を学級経営に活用し、学力の向上につなげている。
- ・学校生活や学習に対する関心・意欲を高めるために、校舎の特色(フリースペース等)を生かした学習環境づくりに取り組んでいる。また教室環境にもユニバーサルデザインの考え方を取り入れ児童が授業に集中しやすい教室掲示や、落ち着いた教室環境の中で学習できるような工夫をしている。

(4)大月市教育委員会に於ける今後の取組

低学年から図鑑や本に親しみ、新聞等の図や表を比べて自身の意見を持ち、発信する活動を行っていきます。算数・数学においても式・表・グラフ等を書くことだけでなく、口頭で説明する対話的な授業、文字で書き表す活動の機会を十分に確保していきます。

学習の系統性を考え、より上学年への学習内容のつながりを意識したり、子どもが主体的に考え、話し合うことを中心に据え自力解決の時間を確保したり、ペア学習や小グループでの話し合いを重視したり、課題解決学習をより多く取り入れたり等の授業改善を行います。「朝学習」として基礎的・基本的内容を繰り返し学習する(読書の時間等も含まれている)時間を設定してまいります。その充実をなお一層図っていく必要があります。全般的に文章の読解力向上が課題となっています。

市内小中学校では、それぞれの課題を克服するための独自の取組があります。各校が自ら策定した指導方法改善策に基づき、子ども一人一人を大切に、きめ細かな指導を実現しようと努力しています。